

百人一首一覽 上の句バージョン

番	歌	番	下の句	作者	備考
79	あきかぜに たなびく雲のたえまより もれいつる月の かげのさやけさ	79	もれいつる月の かげのさやけさ	左京大夫顯輔	
1	あきの田の かりほの庵の とまをあらみ わがころもでは 露にぬれつゝ	1	わがころもでは 露にぬれつゝ	天智天皇	
52	あけぬれば くるゝものとはしりながら なをうらめしき あさぼらけかな	52	なをうらめしき あさぼらけかな	藤原道信朝臣	
39	あさちうの をのゝしのはら 忍ぶれど あまりてなどか 人のこひしき	39	あまりてなどか 人のこひしき	参議等	
64	あさぼらけ 宇治のかはぎり たえだえに あらはれわたる 瀬々の綱代木	64	あらはれわたる 瀬々の綱代木	権中納言定頼	
31	あさぼらけ 有明の月と みるまでに よしのの里に ふれるしら雪	31	よしのの里に ふれるしら雪	坂上是則	
3	あしびきの 山鳥の尾の しだりおの ながながし夜を ひとりかもねん	3	ながながし夜を ひとりかもねん	柿本人麻呂	
78	あはじしま かよふ千鳥の なく声に いくよね 寝ぬ すまの関守	78	いくよね 寝ぬ すまの関守	源兼昌	
45	あはれとも いふべき人は おもほえて みのいたづらに なりぬべき哉	45	みのいたづらに なりぬべき哉	謙徳公	
43	あひ見ての 後の心に くらぶれば むかしは物を 思はざりけり	43	むかしは物を 思はざりけり	権中納言敦忠	
44	あふことの たえてしなくは 中々に ひとをも身をも うらみざらまし	44	ひとをも身をも うらみざらまし	中納言朝忠	
12	あまつ風 雲のかよひ路 吹きとちよ をとめのすがた しばしとゞめん	12	をとめのすがた しばしとゞめん	僧正遍昭	
7	あまの原 降りさけ見れば 春日なる みかさの山に いてし月かも	7	みかさの山に いてし月かも	安倍仲磨	
56	あらざらむ このよのほかの 思ひ出に いまひとたびの あふこともがな	56	いまひとたびの あふこともがな	和泉式部	
69	あらし吹く 三室の山のもみぢは だつたの川の にしきなりけり	69	だつたの川の にしきなりけり	能因法師	
30	ありあけの つれなくみえし 別れより あかつきばかり うきものはなし	30	あかつきばかり うきものはなし	壬生忠岑	
58	ありま山 いなの篠原 風吹けば いでそよ人を わすれやはする	58	いでそよ人を わすれやはする	大弐三位	
61	いにしへの ならの都の 八重桜 けふ九重に にほひぬるかな	61	けふ九重に にほひぬるかな	伊勢大輔	
21	いまこむと 言ひしばかりに 長月の ありあけの月を 待ちいてつるかな	21	ありあけの月を 待ちいてつるかな	素性法師	
63	いまはたゝ おもひ絶なん とばかりを ひとつてならで いふよしもがな	63	ひとつてならで いふよしもがな	左京大夫道雅	
74	うかりける 人をはつせの 山をろし風 はげしかれとは 祈らぬものを	74	はげしかれとは 祈らぬものを	源俊頼朝臣	
65	うらみわび ぼさぬ袖だに あるものを こひにくちなん 名こそおしけれ	65	こひにくちなん 名こそおしけれ	相模	
60	おおえやま いくのゝ 道のゝを ければ まだふみもみす 天のはしだて	60	まだふみもみす 天のはしだて	小式部内侍	
5	おくやまに 紅葉ふみわけ 鳴く鹿の こゑきく時ぞ 秋は悲しき	5	こゑきく時ぞ 秋は悲しき	猿丸大夫	
26	おくらやま 峰のもみぢは ころろあらば いまひとたびの みゆきまたなん	26	いまひとたびの みゆきまたなん	貞信公	

百人一首一覽 上の句バージョン

番	歌	番	下の句	作者	備考
72	おとにきく たかしの 浜の あだ波は かけじや袖の ぬれもこそすれ	72	かけじや袖の ぬれもこそすれ	祐子内親王家紀伊	
95	おほけなく 浮世の民に おほふかな わがたつそまに すみぞめの袖	95	わがたつそまに すみぞめの袖	前大僧正慈円	
82	おもひわび さいてのいちは ある物を うきにたへぬは なみだなりけり	82	うきにたへぬは なみだなりけり	道因法師	
51	かくとだに えやはいふきの さしも草さしも しらしな もゆる思ひを	51	さしもしらしな もゆる思ひを	藤原実方朝臣	
6	かさゝぎの わたせる橋に 置く霜の しろきを見れば 夜ぞふけにける	6	しろきを見れば 夜ぞふけにける	中納言家持	
98	かぜそよく ならの小川の 夕暮は みそぎぞ夏の しるしなりける	98	みそぎぞ夏の しるしなりける	従二位家隆	
48	かぜをいたみ 岩うつ波の をのれのみ くだけてものを おもふころかな	48	くだけてものを おもふころかな	源重之	
50	きみがため おしからざりし 命さへ ながくもがなと おもひぬる哉	50	ながくもがなと おもひぬる哉	藤原義孝	
15	きみがため 春の野に出て 若菜つむ わがころもでに 雪はふりつゝ	15	わがころもでに 雪はふりつゝ	光孝天皇	
91	きりぎりす なくや霜夜の さむしるに ころもかたしき ひとりかもねん	91	ころもかたしき ひとりかもねん	後京極摂政太政大臣	
29	ころろあてに をらばやおらむ 初霜の をきまどはせる しらぎくの花	29	をきまどはせる しらぎくの花	凡河内躬恒	
68	ころろにも あらでこのよに ながらへば こひしかるべき よはの月かな	68	こひしかるべき よはの月かな	三条院	
97	こぬ人を まつほの浦の 夕なぎに やくやもしほの 身もこがれつゝ	97	やくやもしほの 身もこがれつゝ	権中納言定家	
24	このたびは ぬさもとりあへず 手向山 もみぢのにしき かみのまにまに	24	もみぢのにしき かみのまにまに	管家	
41	こひすてふ 我名はまだき 立ちにけり ひとしれすこそ 思ひ初めしか	41	ひとしれすこそ 思ひ初めしか	壬生忠見	
10	これやこの 行くも帰るも 別れては しましらぬも 相坂の関	10	しましらぬも 相坂の関	蝉丸	
70	さびしさに 宿を立出て 詠むれば いづくもおなじ あきのゆらぐれ	70	いづくもおなじ あきのゆらぐれ	良暉法師	
40	しのぶれど 色に出にけり わが恋は ものや思ふと 人の問ふまで	40	ものや思ふと 人の問ふまで	平兼盛	
37	しらつゆに 風のふきしく 秋のゝは つらぬきとめぬ 玉ぞちりける	37	つらぬきとめぬ 玉ぞちりける	文屋朝康	
18	すみの江の 岸による波 よるさへや ゆめの通ひ路 人目よくらむ	18	ゆめの通ひ路 人目よくらむ	藤原敏行朝臣	
77	せをはやみ 岩にせかるゝ 滝川の われてもすゑに あはむとぞおもふ	77	われてもすゑに あはむとぞおもふ	崇徳院	
73	たかさごの 尾上の桜 さきにけり とやまの霞 たゝすもあらなん	73	とやまの霞 たゝすもあらなん	前中納言匡房	
55	たきの音は 絶えて久しく なりぬれど なこそながれて なをきこえけれ	55	なこそながれて なをきこえけれ	大納言公任	
4	だこの浦に うち出てみれば 白妙の ぶじのたかねに 雪はふりつゝ	4	ぶじのたかねに 雪はふりつゝ	山辺赤人	
16	だちわかれ いなほの山の 嶺におふる まつとし聞かば 今かへりこむ	16	まつとし聞かば 今かへりこむ	中納言行平	

百人一首一覽 上の句バージョン

番	歌	番	下の句	作者	備考
89	たまのをよ 絶なば絶ねながらへばし のぶることのよはりもぞする	89	し のぶることのよはりもぞする	式子内親王	
34	たれをかもしる人にせむ 高砂のまつもむかしのともならなくに	34	まつもむかしのともならなくに	藤原興風	
42	ちぎりきな かたみに袖をしぼりつゝ すゑの松山 なみこさじとは	42	すゑの松山 なみこさじとは	清原元輔	
75	ちぎりをきし させもが露を 命にてあはれことしの 秋もいぬめり	75	あはれことしの 秋もいぬめり	藤原基俊	
17	ちはやぶる 神代もきかす 龍田川 からくれなゐに 水くゞるとは	17	からくれなゐに 水くゞるとは	在原業平朝臣	
23	つきみれば 千々に物こそ 悲しけれ わがみひとつの 秋にはあらねど	23	わがみひとつの 秋にはあらねど	大江千里	
13	つくばねの 峰より落つる みなへの川 こひそつもりて 淵となりぬる	13	こひそつもりて 淵となりぬる	陽成院	
80	ながからむ 心もしらす くらかみの みだれてけさは 物をこそ思へ	80	みだれてけさは 物をこそ思へ	待賢門院堀河	
84	ながらへば またこのごろや しのばれん うしと見しよ さまは恋しき	84	うしと見しよ さまは恋しき	藤原清輔朝臣	
53	なげきつゝ ひとりぬるよの 明るまは いかにか 久しきものとかはしる	53	いかにか 久しきものとかはしる	右大将道綱母	
86	なげけとて 月や物を 思はする かこちがほなる わがなみだかな	86	かこちがほなる わがなみだかな	西行法師	
36	なつの夜は まだ曾ながら 明けぬるを くものいづくに 月やどるらむ	36	くものいづくに 月やどるらむ	清原深養父	
25	なにしておは 相坂山の さねかつら ひとにしられて くるよしもがな	25	ひとにしられて くるよしもがな	三条右大臣	
19	なにはがた みじかきあしの 心しのみも あはでこの世を 過くしてよとや	19	あはでこの世を 過くしてよとや	伊勢	
88	なにわえの あしのかりねの ひとよゆへ みをつくしてや 恋わたるべき	88	みをつくしてや 恋わたるべき	皇嘉門院別当	
96	はなさそふ あらしの庭の 雪ならで ぶり行くものは 我身なりけり	96	ぶり行くものは 我身なりけり	入道前大政大臣	
9	はなの色は うつりにけりな いたづらに わが身よに ぶるながめせしまに	9	わが身よに ぶるながめせしまに	小野小町	
2	はるすぎて 夏来にけらし 白妙の ころもほすて 天の香具山	2	ころもほすて 天の香具山	持統天皇	
67	はるの夜の 夢ばかりなる 手枕に かひなくたゝむ 名こそ惜しけれ	67	かひなくたゝむ 名こそ惜しけれ	周防内侍	
33	ひさかたの ひかりのどけき 春の日に しづ心なく 花のちるらむ	33	しづ心なく 花のちるらむ	紀友則	
35	ひとはいさ ころもしらす 故郷は はなぞむかしの かに匂ひける	35	はなぞむかしの かに匂ひける	紀貫之	
99	ひともおし 人も恨めし あぢきなく よをおもふゆへに 物思ふ身は	99	よをおもふゆへに 物思ふ身は	後鳥羽院	
22	ふくらに 秋の草木の しほるれば むべ山風を あらしと云らむ	22	むべ山風を あらしと云らむ	文屋康秀	
81	ほととぎす なきつるかたを ながむれば たゞありあけの 月ぞのこれる	81	たゞありあけの 月ぞのこれる	後徳大寺左大臣	
49	みかきもり 衛士のたく火の 夜はもえひるは 消えつゝ 物をこそおもへ	49	ひるは消えつゝ 物をこそおもへ	大中臣能宣	

3

百人一首一覽 上の句バージョン

番	歌	番	下の句	作者	備考
27	みかのほら わきてながるゝ 泉河 いつみきとてか こひしかるらむ	27	いつみきとてか こひしかるらむ	中納言兼輔	
90	みせばやな をじまのあまの 袖だにも ぬれにぞぬれし 色はかはらず	90	ぬれにぞぬれし 色はかはらず	殷富門院大輔	
14	みちのくの しのぶもぢり 誰ゆへに みだれぞめにし 我ならなくに	14	みだれぞめにし 我ならなくに	河原左大臣	
94	みよしのゝ 山の秋風 さよふけて ぶるさとさむく ころもうつなり	94	ぶるさとさむく ころもうつなり	参議雅経	
87	むらさめの 露もまだひぬ まきのはに きりたちのほる あきのゆふぐれ	87	きりたちのほる あきのゆふぐれ	寂蓮法師	
57	めぐりあひて 見しやそれとも 分かぬまに くもがくれにし 夜半の月かな	57	くもがくれにし 夜半の月かな	紫式部	
100	ももしきや ぶるき軒端の しのぶにも なをあまりある むかしなりけり	100	なをあまりある むかしなりけり	順徳院	
66	もろともは 哀れと思へ 山桜 はなよりほかに 知る人もなし	66	はなよりほかに 知る人もなし	大僧正行尊	
59	やすらはて ねなましぬ を さよふけて かたぶくまでの 月を見しかな	59	かたぶくまでの 月を見しかな	赤染衛門	
47	やへむぐら しげれる宿の さびしきに ひとこそ見えね あきは来にけり	47	ひとこそ見えね あきは来にけり	患慶法師	
32	やまがわに 風のかけたる しがらみは ながれもあへぬ 紅葉なりけり	32	ながれもあへぬ 紅葉なりけり	春道列樹	
28	やまざとは 冬ぞさびしき まさりける ひとめもくさも かれぬとおもへば	28	ひとめもくさも かれぬとおもへば	源宗千朝臣	
71	ゆふされば 門田の稲葉 をとづれて あしのまろやに 秋風ぞふく	71	あしのまろやに 秋風ぞふく	大納言経信	
46	ゆらのとを 渡る舟人 かちをたえ ゆくへもしらぬ 恋のみちかな	46	ゆくへもしらぬ 恋のみちかな	曾禰好忠	
93	よのなかは つねにもがもな なきさこく あまのをふねの 綱手かなしも	93	あまのをふねの 綱手かなしも	鎌倉右大臣	
83	よのなかよ 道こそなけれ おもひ入る やまのおくにも 鹿ぞなくなる	83	やまのおくにも 鹿ぞなくなる	皇太后宮大夫俊成	
85	よもすがら 物思ふころは 明けやらぬ ねやのひまさへ つれなかりけり	85	ねやのひまさへ つれなかりけり	俊恵法師	
62	よをこめて 鳥の空音は はかるとも よにあらさかの 聞はゆるさじ	62	よにあらさかの 聞はゆるさじ	清少納言	
92	わがそでは しほびに見えぬ おきの石の ひとこそしらね かはくまもなし	92	ひとこそしらね かはくまもなし	二条院讃岐	
8	わが庵は 都のたつみ しかぞすむ よをうち山と 人はいふなり	8	よをうち山と 人はいふなり	喜撰法師	
38	わすらるゝ 身はば思はず ちかひてし ひとのいのちの おしくもあるかな	38	ひとのいのちの おしくもあるかな	右近	
54	わすれじの 行末返は かたければ けふをかぎりの 命ともがな	54	けふをかぎりの 命ともがな	儀同三司母	
11	わたのはら 八十嶋かけて こぎ出ぬと ひとには告げよ あまのつりふね	11	ひとには告げよ あまのつりふね	参議肇	
76	わたの原 こき出てみれば ひさかたの くもにまがふ 奥津白波	76	くもにまがふ 奥津白波	法性寺入道前関白太政大臣	
20	わびぬれば 今はた同じ 難波なる みをつくしても あはむとぞ思ふ	20	みをつくしても あはむとぞ思ふ	元良親王	

4